

校章・文字入りマウスカバーはいかが？

ミズノとセノーが販売、記念品にも

協力会社のミズノとセノーが、飛沫予防対策に使える「マウスカバー」を販売しています。マウスカバーには校章や文字などのマークをプリントすることができ、お揃いの記念品としての配布にもぴったりです。

サイズはS・M・Lの3種類で、5色のカラーを展開しています。価格は1枚当たり税込935円。

身に付けたときの左下にはミズノのマークがあり、反対の右側にオリジナルのマークをプリントすることも出来ます。マークの大きさは最大4cm×4cm、縦横の少なくともどちらかは4cmとしてください。

プリントは、シートに印刷したデザインを圧着する方法なら多色対応が可能です。白地なら本体に直接プリン

トすることもできます。費用は1枚につき税込880円。また単色のラバーシートを文字などに加工してつくる「カットラバー圧着」なら費用は1枚につき税込660円。注文は、マークの有無にかかわらず原則30枚以上からとなりますが、少ない枚数でも対応できる場合があるため、相談してみてください。

お問い合わせはミズノ株式会社(0120-140-336)またはセノー株式会社(0120-292-541)まで。

※本品は感染(侵入)を防ぐものではありません。飛沫の拡散をやわらげるための、咳エチケットとしてご使用ください。また、運動時の使用はお避け下さい。



Dr.ナダレンジャーが新作動画3本公開

津波、重力流、対流…面白くて、ためになります

防災科学教室などでの楽しい実験授業で知られるDr.ナダレンジャーの、新しい動画が3本アップされました。独自に考案した器具を使い、楽しい話術を交えながら実験を披露してくれます。

「津波現象」では、水を入れた容器を揺らして波を起こします。すると、水の深さによって、波の伝わるスピードが違ってくるのがわかります。高さ10mの津波なら速さは秒速10mにも。「津波と競走して勝てるのはウサイン・ボルトしかいない？」とDr.ナダレンジャー。

「重力流現象」では、発泡スチロールの小さな玉をまとめて斜面に流します。流れの先端が大きくなってオタマジャクシのような形になり、玉の量を増やすとスピードも上がりました。もしも東京ドーム一杯分を流したら、速度は新幹線並みにもなるそう。「もっと重たい土砂や岩だったら、もっと怖いのもわかりますね？」

「対流現象」では、容器にぬるま湯を入れ、湯気で曇



る側面の様子を観察します。すると、空気が上昇するところは曇り、下降するところは曇りません。空気が対流を起こしている様子が分かるのです。「これが巨大な積乱雲だったら？ 嵐になったり、雷が鳴ったり……」

Dr.ナダレンジャーは、国立研究開発法人防災科学技術研究所(防災科研)の納口恭明博士が、サイエンスショーのために「変身」した姿です。実験は、同じく防災科研の罇優子さんが変身した助手のナダレンコとやりとりしながら進められます。今までの「エッキー(液化化実験)」

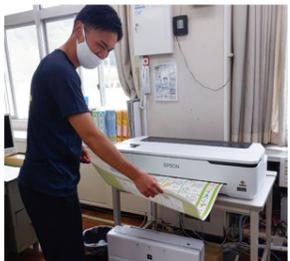
「ゆらゆら(地震の揺れ実験)」「Dr.ナダレンジャー(なだれ実験)」とあわせ、これで動画は計6本。防災科研のホームページからご覧になれます。

ベルマーク財団と防災科研が共催する「防災科学教室」は、今も申込受付中です。コロナ禍に配慮したオンライン開催も可能です。詳しくは、財団にお問合せいただくか、財団HPの記事をご覧ください。申込書はHP「ダウンロード」→「各種申込書」から入手できます。

石川・白山市立白峰小から感謝メッセージ

ベルマーク財団の今年度へき地校支援の対象校のひとつ、石川県の白山市立白峰小学校(越田卓夫校長、児童17人)から、感謝メッセージと贈呈した備品を活用している写真が届きました。

白峰小は手取川上流、ダム湖の先の山あいの集落にあります。石川県で最も南に位置する学校だそうです。白峰地区は霊峰・白山への登山口として古くから知られています。



今回の支援で白峰小には大型のカラープリンターが贈られました。同校にはモノクロの大型プリンターはありましたが、画質も悪く買い替え時期にきていたのに、なかなか更新できないでいたそうです。「授業や学校行事で有効に使わせていただきます」と越田校長。

そのほか白峰小には黒板ふきクリーナー、マイクスタンド各1台、それに観察ボード18個が贈られました。

コロナ禍について越田校長は「山麓まで働きに出ている保護者もいるので、対策には気を使っています」と話



します。週末の登山客の出入りもあり、子どもたちは消毒やマスク着用を心がけているとのこと。早くマスクを取って、みんなで思い切り遊べる日がくるといいですね。

ある学校から、100万点を超すベルマークが一度に送られてきました。普通なら、そんなに集めるには数年から十数年はかかります。いったい何があつたのか、学校に聞いてみました。

副校長先生によると、このベルマークはあるNGOが持っている

学校に届けられたベルマークは、ボランティアの手によって、きちんと仕分け・集計されていました。その後、財団に送られてきたマークを職員が検収(点検)したところ、中には

思いぬ大量点数をどう使うか、学校はPTAに相談、色々話し合ったそうです。その結果、今回ベルマークをいただきたいように、子どもたちの学校生活は色々な方たちに支えられて

一度になんと100万点、その訳は…



ベルマークは、その協賛会社が脱退しない限り、古いものでも有効です。個人で收藏していてもベルマークは使えませんが、運動に参加している学校に送れば、その学校で備品を買うことができます。財団にお送り下されば、被災地の学校などの支援に回します。なので、決して捨てずに役立てていただくよう、お願いいたします。

ベルマークは、その協賛会社が脱退しない限り、古いものでも有効です。個人で收藏していてもベルマークは使えませんが、運動に参加している学校に送れば、その学校で備品を買うことができます。財団にお送り下されば、被災地の学校などの支援に回します。なので、決して捨てずに役立てていただくよう、お願いいたします。

すでに脱退した会社のマークや、今ではみかけないデザインにわたって集められてきた様子がかがえしました。検収結果は112万6320点でした。

おり、そのことに子どもたち自身も気付いてほしいと考えました。このため、実際に子どもたちが使うものを購入することにし、同時に購入の経緯を子どもたち自身がみんなに紹介していく形をとることにしました。同校はまず、コロナ対策に欠かせない足踏み式消毒液スタンドを購入。さらに今後は書籍などを購入予定です。書籍は子どもたちの委員会を通じて本の選択にも関与してもらうことも検討しています。